

# ぶどうの樹だより

vol.07  
2022.1.1

## NEWS LETTER

### ぶどうの樹キリスト教会

#### 「名前の由来」

わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。」

新約聖書 ヨハネの福音書 15章5節

この聖書のことばが『ぶどうの樹キリスト教会』の名前の由来です。イエス・キリストが『ぶどうの木』で、私たちは『ぶどうの枝』。枝は木を離れては実を結ぶことはできないので、ぶどうの木(イエス・キリスト)に繋がっていることの大切さを覚えておくため、この名前にしました。



日本福音キリスト教会連合  
宗教学人 ぶどうの樹キリスト教会

〒160-0008

東京都新宿区四谷三栄町6-26



私たちの教会はキリスト教会のプロテスタントに属しています。皆さんは「教会」を訪ねたことがあるでしょうか？ といっても、今はコロナ禍で「訪ねてください」とも言えません。また、これまで「教会は『敷居』が高くて行ったことはない」という方も多いでしょう。宗教というものに疑いを抱き、「教会には行かない」という方もいると思います。そのような皆さんに、だからこそ、まずは教会に行かなくても、イエス・キリストがどういう方であるか少しでも知ってもらいたく、お便りを出しています。



ぶどうの樹キリスト教会  
牧師 三木 新

「これに叫んでも答えず、苦しみから救ってもくれない。」

イザヤ書46章7節

新型コロナウイルスの猛威の前に、私たちは「努力」と「協力」を惜しまず、市中感染やクラスターを起こさないようにと心がけてまいりました。それでも、肉眼ではなかなか見えないウイルスを前に、心配と不安、悲しみは絶えません。

コロナ以前から、「格差社会」は叫ばれていましたが今はそれ以上に「格差」が拡がり、ネット社会になって便利になったはずなのに、社会の「分断」や「関係の希薄化」が言われ、「いじめ」や「虐待」、「社内での陰湿な暴力」や「性的不品行や淫行」は後を絶ちません。

そんな中、私たち人間は、いつもどこかで何かを頼りにしていこうとする「存在」です。それは、人間がそのように造られたからでしょう。決して「弱い人の姿」ではありません。

だからこそ、新年に「初詣」に行く。「宮参り」に行く。「願掛け」にお寺や神社に行く。それが、「日本人の精神風土である」と言い、それが「日本の風習・伝統・宗教」だとも言います。コロナ禍であっても、有名な神社仏閣であれば、以前では300万人を越す参拝客でにぎわい、全国では延べ1億人に達するほどいらっしやったようです。

でも、そこで人々は、誰に、何を、祈り願うのでしょうか。

「袋から金を惜しげなく出し、銀を天秤で量る者たちは、  
金細工人を雇って、それで神を造り、ひざまずいては、これを拜む。  
彼らはこれを肩に担いで運び、それがあったところに安置すると、  
それはそこに立ったままである。これはその場所から動かない。  
これに叫んでも答えず、苦しみから救ってもくれない」

と聖書にあります。

せっかく祈り求め、願うならば、人のこしらえ作った「偶像」ではなく、「まことの神」に呼び求めてはどうでしょうか。

「わたしをだれになぞらえて比べ、わたしをだれと並べて、なぞらえるのか。・・・

わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない」

人の苦しみから本当の意味で救って下さる方をどうぞ呼び求めて頂きたいと思ひます。